

—高牟神社がなぜ濃尾にあるのか？—

濃尾地域に展開する高皇産霊神の実像を探る（補）

平成 31 年 4 月 6 日（土）

於：名古屋クラブツーリズム

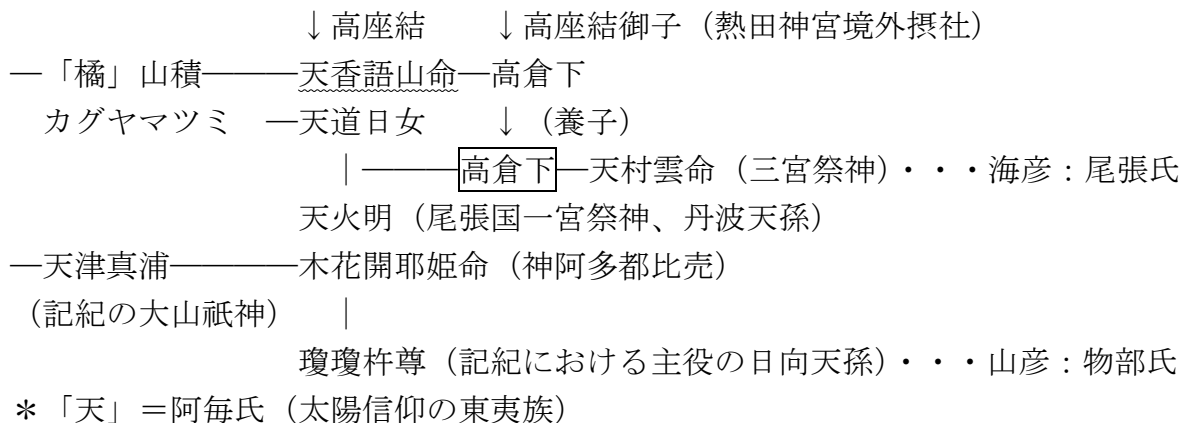
在野一生

・高牟神社（祭神：高皇産霊神）神紋「橘」



高牟神社神紋は「橘」（蜜柑の原種）、奈良時代以後の四名家<源平藤橘>

<秀真伝神系図>



・富士山、尾張富士、春日井と「阿多」&大山祇

秀真伝によれば、「橘」（カグヤマ）＝富士山

* 「カグ」→伽（耶）部→伽耶族（弥生時代の最先端産鉄族）

富士山には浅間神社（祭神：大山祇神、木花開耶姫命＝神阿多都比売）

→犬山市の尾張富士 大宮浅間神社（祭神：木花開耶姫命）

春日井市の和爾良神社（祭神：阿多賀田須命）

高座山祭神は天香語山命（大山祇神の子）

各務原市に「丸子」＝和邇子部

濃尾一帯に展開する「高」（多加）地名→濃尾は天香語山命（和邇）族の開拓地

* 伽（耶）「khwa」の kh 子音が落ちで「wa」＝倭→和邇、可兒。

伽（耶）派（伽耶族）は ka-ppa（河泊、河童）に。

大和は、khwa→khw が y に子音転訛して ya+間+戸＝伽耶（倭）族邑 竈神

八衢（八岐大蛇）≡大和にいた伽耶族の猿田彦（出雲神）は猿猴（河泊）となる。

∴伽耶＝倭（和邇）＝八岐大蛇（草薙劍）≡須賀八箇耳（大国主）≡猿田彦（猿猴）

↑熱田神宮→阿多族＝大山祇（天香語山命）族

・天火明命と出雲神族の母系王族

↓熱田神宮主神（八岐大蛇神劍）と推定

阿陀加夜奴志多岐喜比賣命 * 出雲建国碑のある阿太加夜神社祭神

|———天道日女（高照姫）* 熱田神宮境外摂社青衾神社

大国主 |———天香語山命（養子：天道日女の甥）———天村雲命・・・尾張氏

天火明命 * 真清田神社祭神

↑熱田神宮

*この大国主は、秀真伝では橘山積（かぐやまつみ）に当たる。

「多岐喜」=多族国は、扶余（北部牛加）を示唆。

・南方系（低温）製鉄、楠

楠は、南方系海洋族の船材。同族は低温製鉄技術を有していた。

製鉄材料は、ソブ（赤水泥）、鬼板、高師小僧、褐鉄鉱系の水酸化鉄。

高座山はソブ山そのもの。伽耶族の製鉄手法は低温製鉄。

高（多加）は、扶余族五中の北部族（水神）出身の安羅・多羅伽耶族を示唆。

*高蔵寺5号墳から鉄鐸と砥石、廻間7号墳からは鞆羽口が出土（高座山付近）。これは多羅伽耶と同系。→田楽（たらが）、田楽、安良（荒）、安楽

北方系降臨神話太陽信仰の融合を念頭におくと、北回りの南方族（北倭）の渡来を想定できる。

—MEMO—